

最終更新日：2020年11月13日

バージョン情報：Ver 1.1

日本版AAASの 設立へ向けて

日本版AAAS設立準備委員会



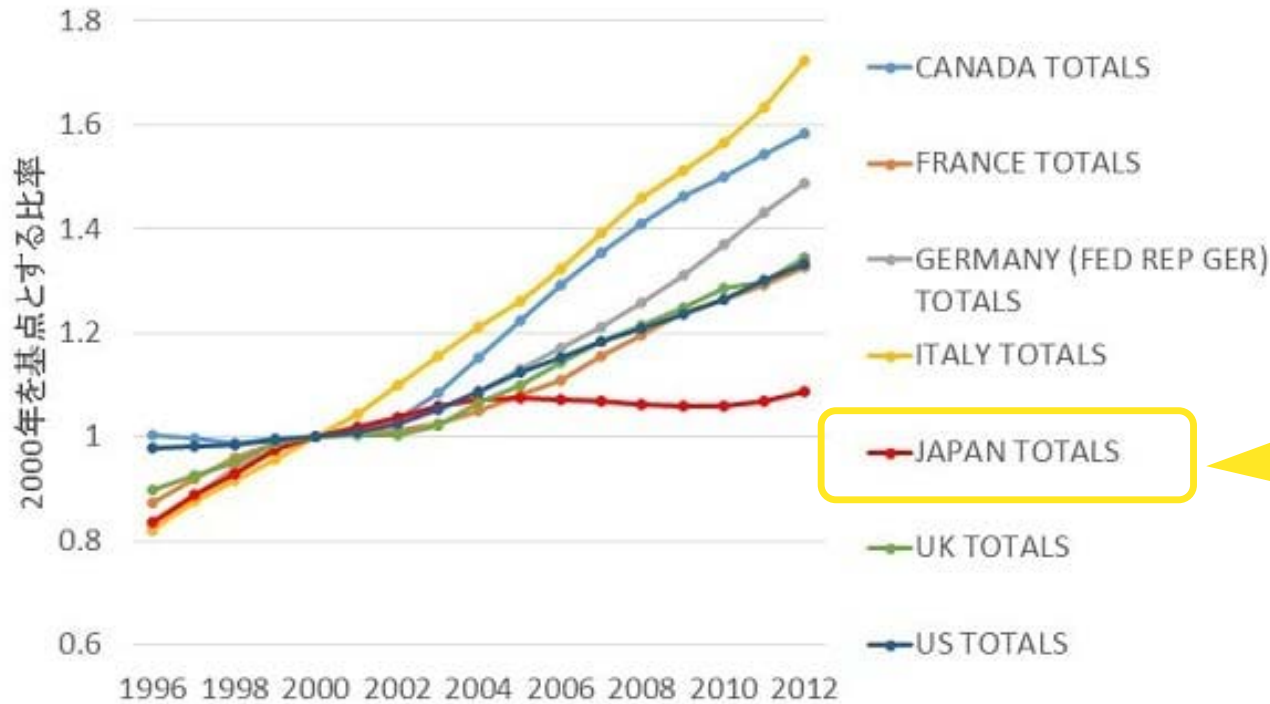
日本版AAAS
設立準備委員会

日本の科学を
もっと元気に！

日本の科学の危機！！

論文数が伸びない

図表Ⅲ－40. 主要7か国全分野論文数の2000年を基点とする推移

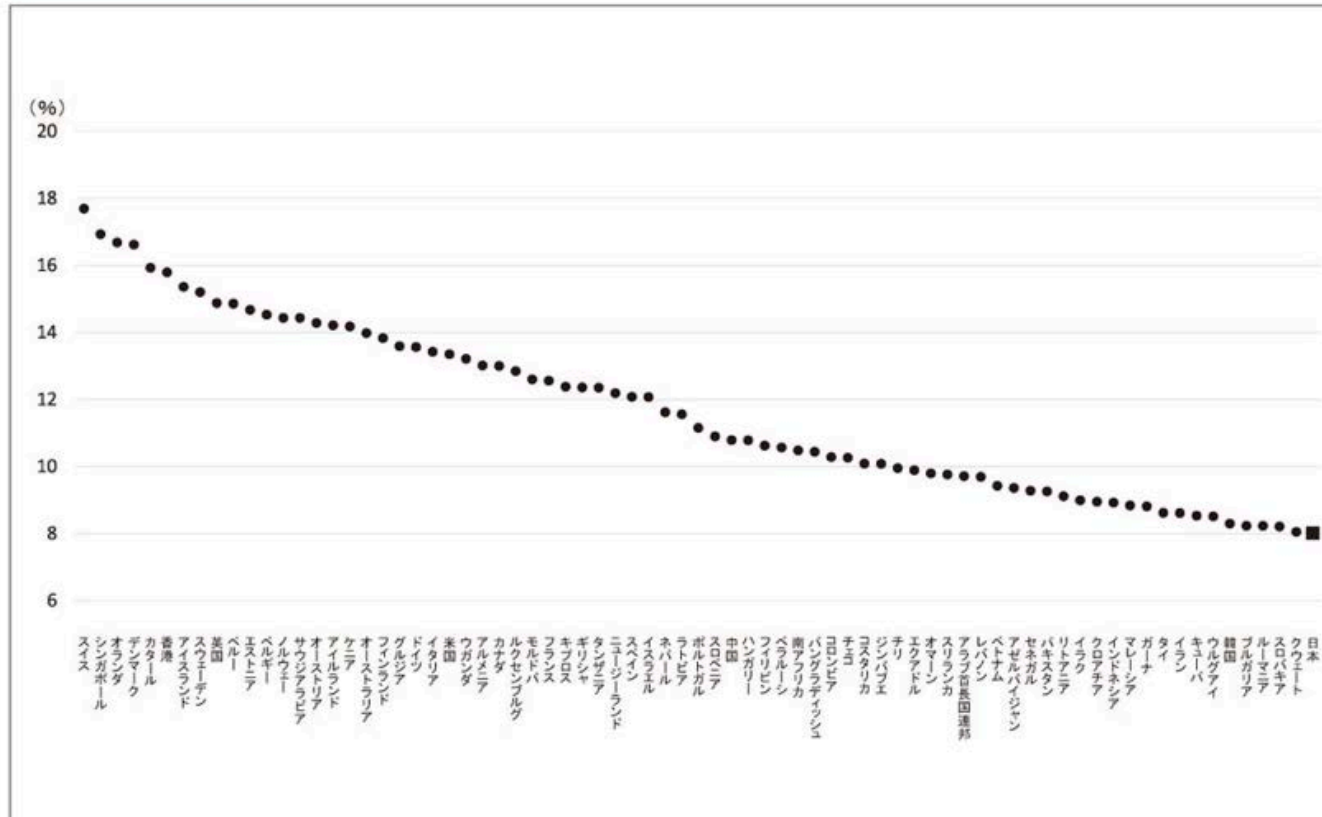


各国のうち
日本のみ
伸び率が**停滞**

注) トムソン・ロイターInCites™にもとづく整数カウント法、3年移動平均値(図に示した年は中央年)。

インパクトも弱い

図表 2 - 27 トップ 10%論文数割合 (2014 - 16 年平均値)



トップ10%論文
の日本シェアは
上位100国のうち
最下位

(注) クラリベイト・アナリティクス社 InCites Benchmarking より 2018 年 2 月 15 日データ抽出。文献種原著、分野分類法 WoS、% Documents in Top 10%、2014 - 16 年平均値。論文数上位 100 位の国・地域について % Documents in Top 10% の順位を検討。

相対的地位の低下が止まらない…

総論文数

1996～1998年 2位
 2006～2008年 4位
 . . .
 2016～2018年 5位

全分野	1996 - 1998年 (PY) (平均)		
	論文数		
	整数カウント		
国・地域名	論文数	シェア	順位
米国	225,298	32.2	1
日本	66,036	9.4	2
ドイツ	60,617	8.7	3
英国	60,446	8.6	4
フランス	45,238	6.5	5
カナダ	30,401	4.3	6
イタリア	28,578	4.1	7
ロシア	27,062	3.9	8
中国	19,490	2.8	9
スペイン	18,772	2.7	10
オーストラリア	18,051	2.6	11
オランダ	17,248	2.5	12

全分野	2006 - 2008年 (PY) (平均)		
	論文数		
	整数カウント		
国・地域名	論文数	シェア	順位
米国	283,615	28.7	1
中国	95,507	9.7	2
ドイツ	77,114	7.8	3
日本	76,430	7.7	4
英国	75,592	7.7	5
フランス	56,583	5.7	6
イタリア	44,845	4.5	7
カナダ	44,657	4.5	8
スペイン	34,811	3.5	9
インド	32,607	3.3	10
韓国	30,273	3.1	11
オーストラリア	28,912	2.9	12

全分野	2016 - 2018年 (PY) (平均)		
	論文数		
	整数カウント		
国・地域名	論文数	シェア	順位
米国	375,191	24.4	1
中国	351,628	22.9	2
英国	110,733	7.2	3
ドイツ	107,048	7.0	4
日本	81,095	5.3	5
フランス	74,536	4.9	6
インド	69,712	4.5	7
イタリア	68,914	4.5	8
カナダ	65,373	4.3	9
オーストラリア	60,190	3.9	10
韓国	58,881	3.8	11
スペイン	56,319	3.7	12

トップ1%論文数

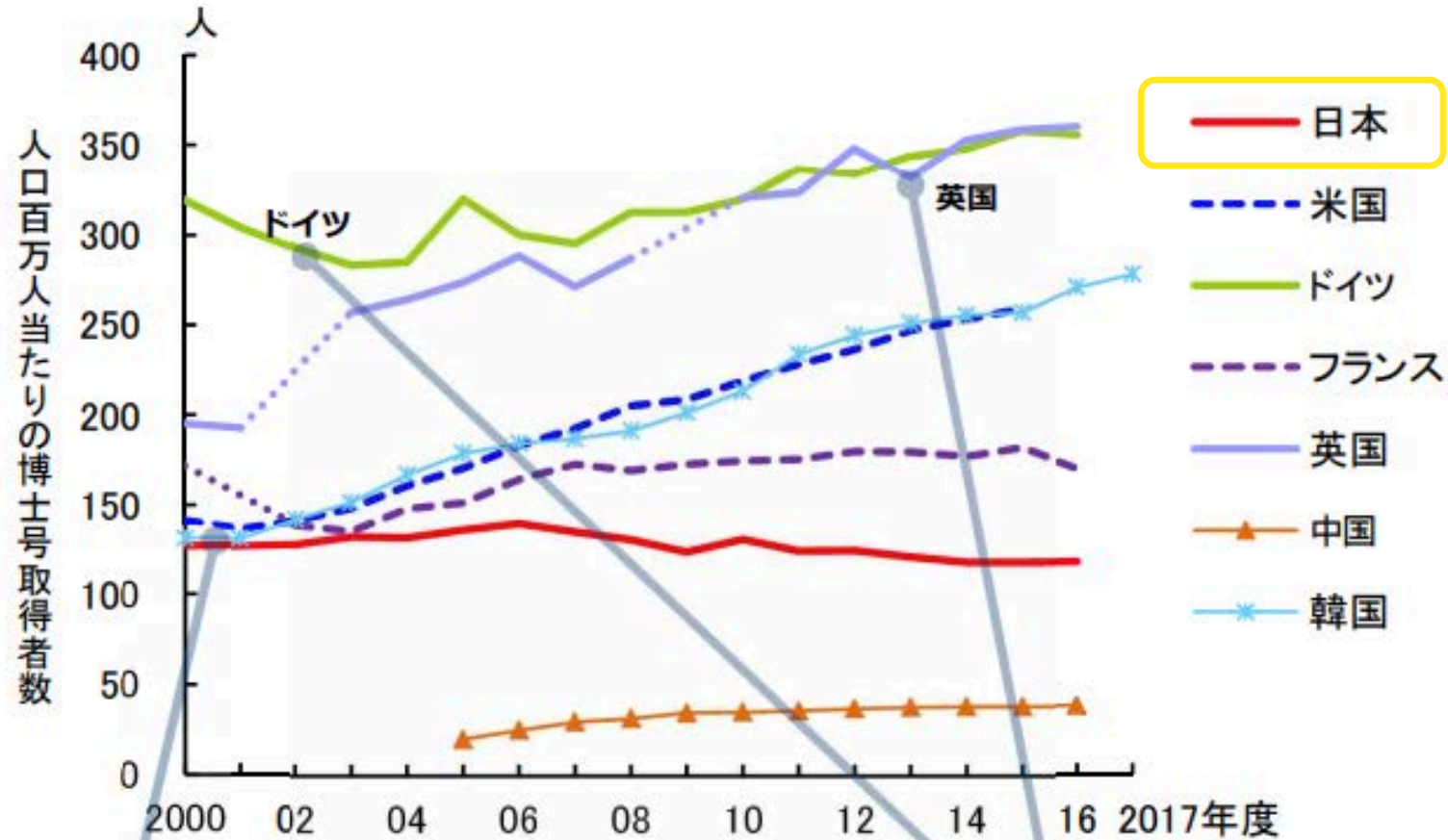
1996～1998年 5位
 2006～2008年 7位
 . . .
 2016～2018年 12位

全分野	1996 - 1998年 (PY) (平均)		
	Top1%補正論文数		
	整数カウント		
国・地域名	論文数	シェア	順位
米国	4,171	59.6	1
英国	820	11.7	2
ドイツ	593	8.5	3
フランス	469	6.7	4
日本	425	6.1	5
カナダ	421	6.0	6
オランダ	276	3.9	7
イタリア	261	3.7	8
スイス	231	3.3	9
オーストラリア	221	3.2	10
スウェーデン	179	2.6	11
スペイン	134	1.9	12

全分野	2006 - 2008年 (PY) (平均)		
	Top1%補正論文数		
	整数カウント		
国・地域名	論文数	シェア	順位
米国	5,242	53.1	1
英国	1,379	14.0	2
ドイツ	1,110	11.3	3
フランス	755	7.7	4
カナダ	724	7.3	5
中国	662	6.7	6
日本	539	5.5	7
イタリア	536	5.4	8
オランダ	514	5.2	9
オーストラリア	477	4.8	10
スイス	418	4.2	11
スペイン	397	4.0	12

全分野	2016 - 2018年 (PY) (平均)		
	Top1%補正論文数		
	整数カウント		
国・地域名	論文数	シェア	順位
米国	6,942	45.2	1
中国	4,692	30.6	2
英国	2,569	16.7	3
ドイツ	2,007	13.1	4
オーストラリア	1,414	9.2	5
フランス	1,356	8.8	6
カナダ	1,352	8.8	7
イタリア	1,182	7.7	8
オランダ	1,056	6.9	9
スペイン	984	6.4	10
スイス	926	6.0	11
日本	794	5.2	12

日本だけ博士号取得者減少が続く…



	年度	人口100万人 当たり博士号取 得者数(人)
日本	2016	118.5
米国	2015	258.3
ドイツ	2016	355.8
フランス	2016	170.0
英国	2016	360.3
中国	2016	38.6
韓国	2017	278.3

・米国、韓国は2000年度には日本と同程度であったが、その後順調な伸びを見せ、最新値では日本の約2倍

・ドイツは継続して主要国の中で一番の規模
・英国は2010年度ごろからドイツに追いつき、その後は両国とも同程度に推移

日本の科学の危機！！

1. 論文数の減少

2. 若手の減少

科学の危機は
社会の危機！

なぜ？

なぜ？

研究費、ポスト、時間
が足りない！

なぜ？

1. 不適切な選択と集中
2. 研究費の総額が足りない
3. 社会での科学/科学者の活用不足

どうする？

どうする？

1. 対話

2. 仕組みの最適化

どうする？

分野，職種・職階，世代の垣根を越え
科学を支える人々が集う

All Japanの組織

が必要！

これまでの活動

総合科学技術会議「科学・技術ミーティングin大阪」(2010)

- ✓ 神経科学者SNSの提言：分野横断的な研究者組織の必要性
- ✓ サイエンスサポート・アソシエーション：フラットでオープンな対話の必要性



ガチ議論

- ✓ 2013年頃から分子生物学会のメンバーを中心に活動
- ✓ 「捏造問題にもっと怒りを」などのネット記事，討論会，政党アンケートなど

第36回日本分子生物学会年会
生命科学を考えるガチ議論



Science Talks

- ✓ 2013年頃から活動。「日本の研究をもっと元気に、面白く。」
- ✓ 「勝手に『第5期科学技術基本計画』」等イベント、情報発信



船田元・畑恵氏との会談(2019)

- ✓ 科学技術基本問題小委員会の船田元・畑恵氏と議論
- ✓ 分野横断的組織の必要性

日本科学振興協会
(Japanese Association for the
Advancement of Science; JAAS; 仮称)

目的・使命・形態（案）

目的

人類の福祉向上と持続的な繁栄

使命

対話を通じた科学技術の振興

形態

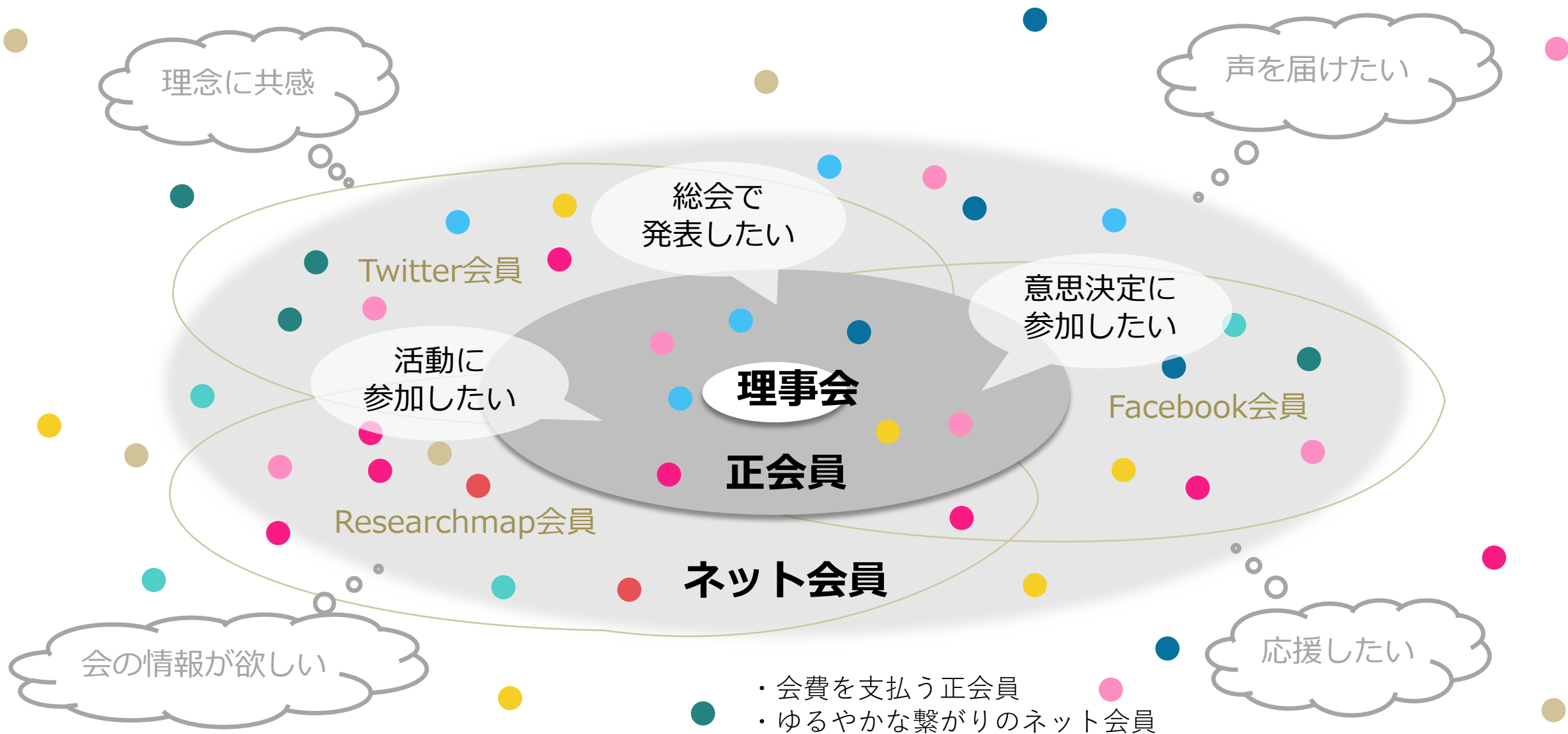
分野，組織，職種・職階，世代の垣根を超え，
科学を支える人が誰でも参加できる
ボトムアップ型の組織

会員構成



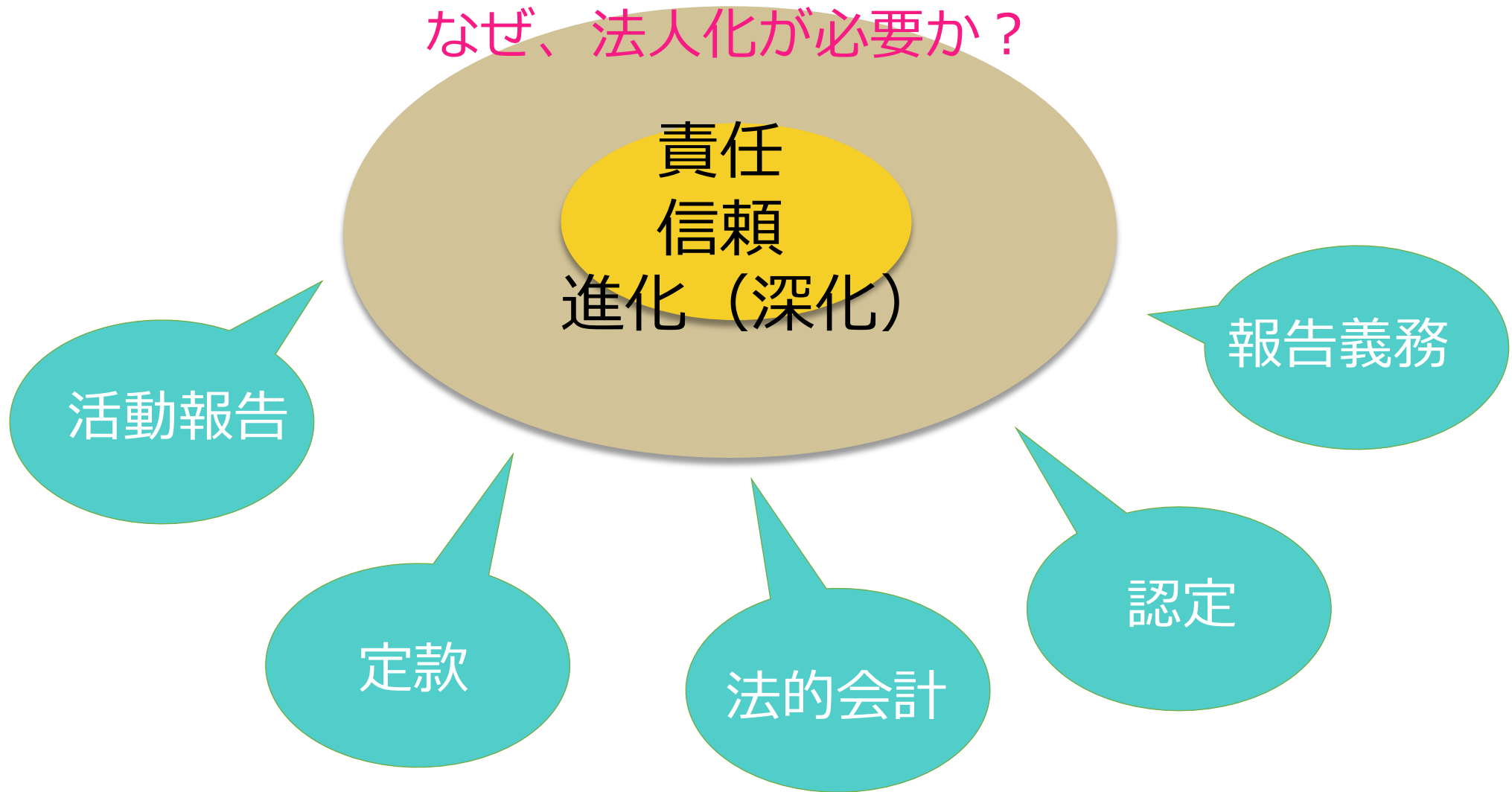
- ・各点は個人を示す
- ・多様な個人の尊重と「見える化」にトライ

組織構成

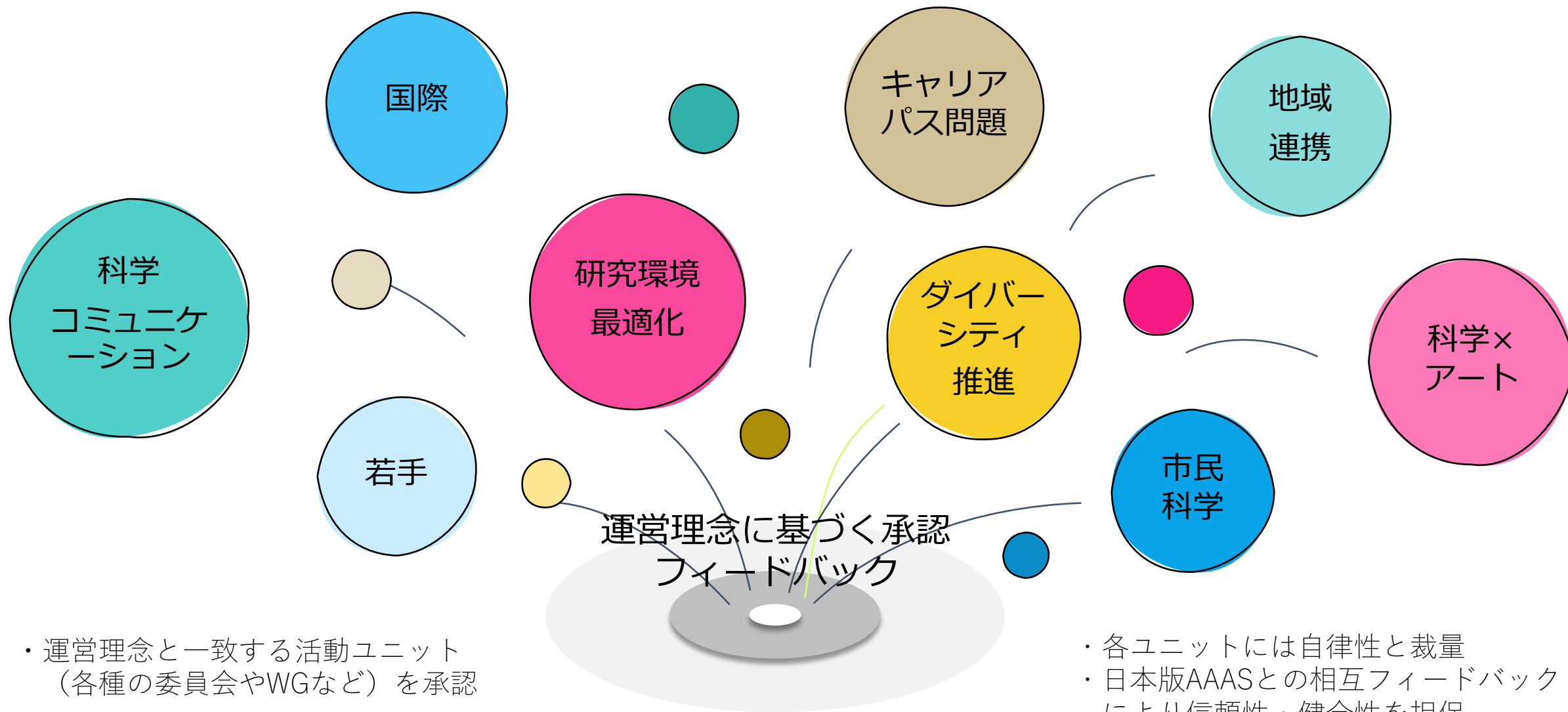


多様な個をNPO法人へ

なぜ、法人化が必要か？

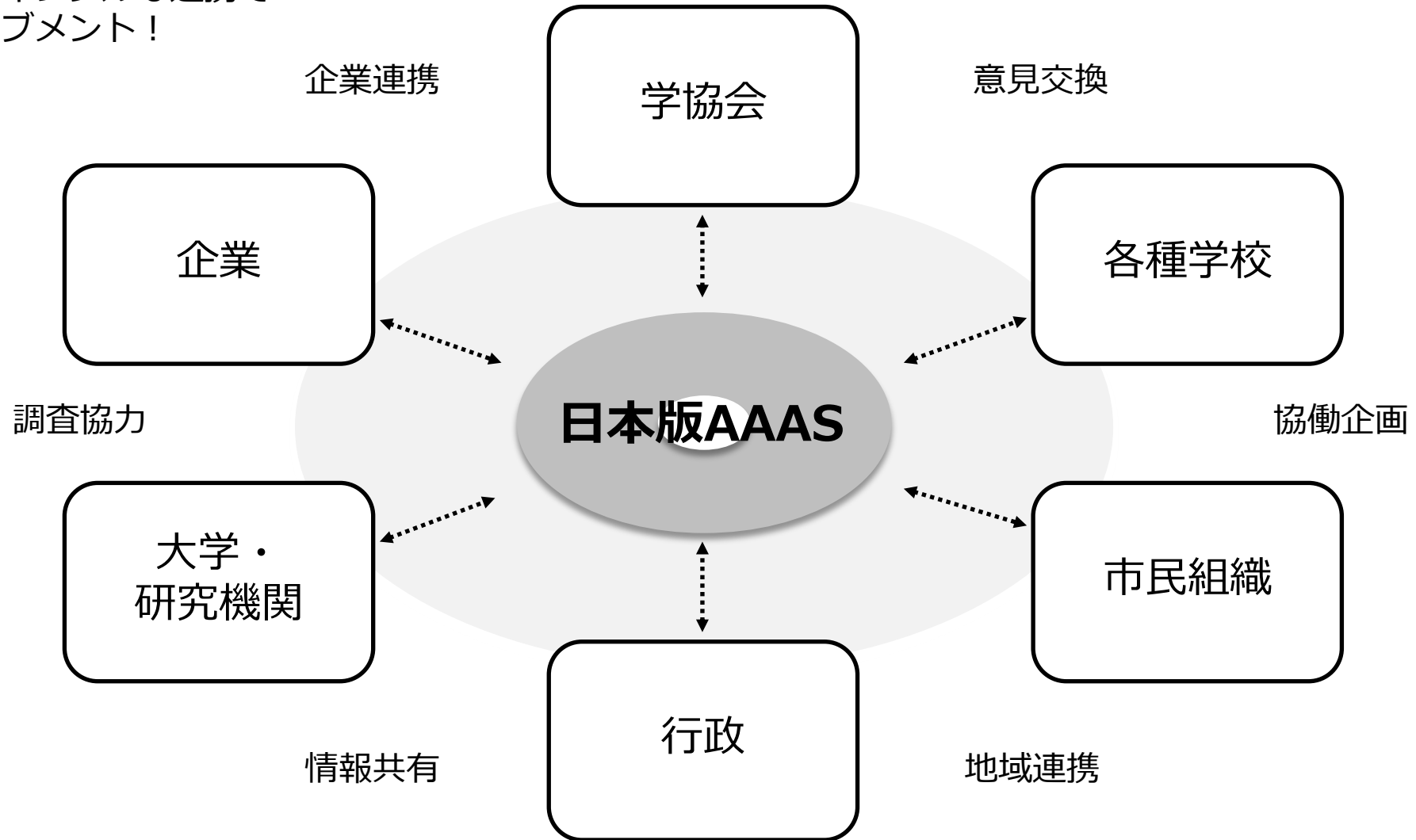


活動ユニット



ゆるやかな連携とネットワーク

既存団体とのフレキシブルな連携で
新たなムーブメント！



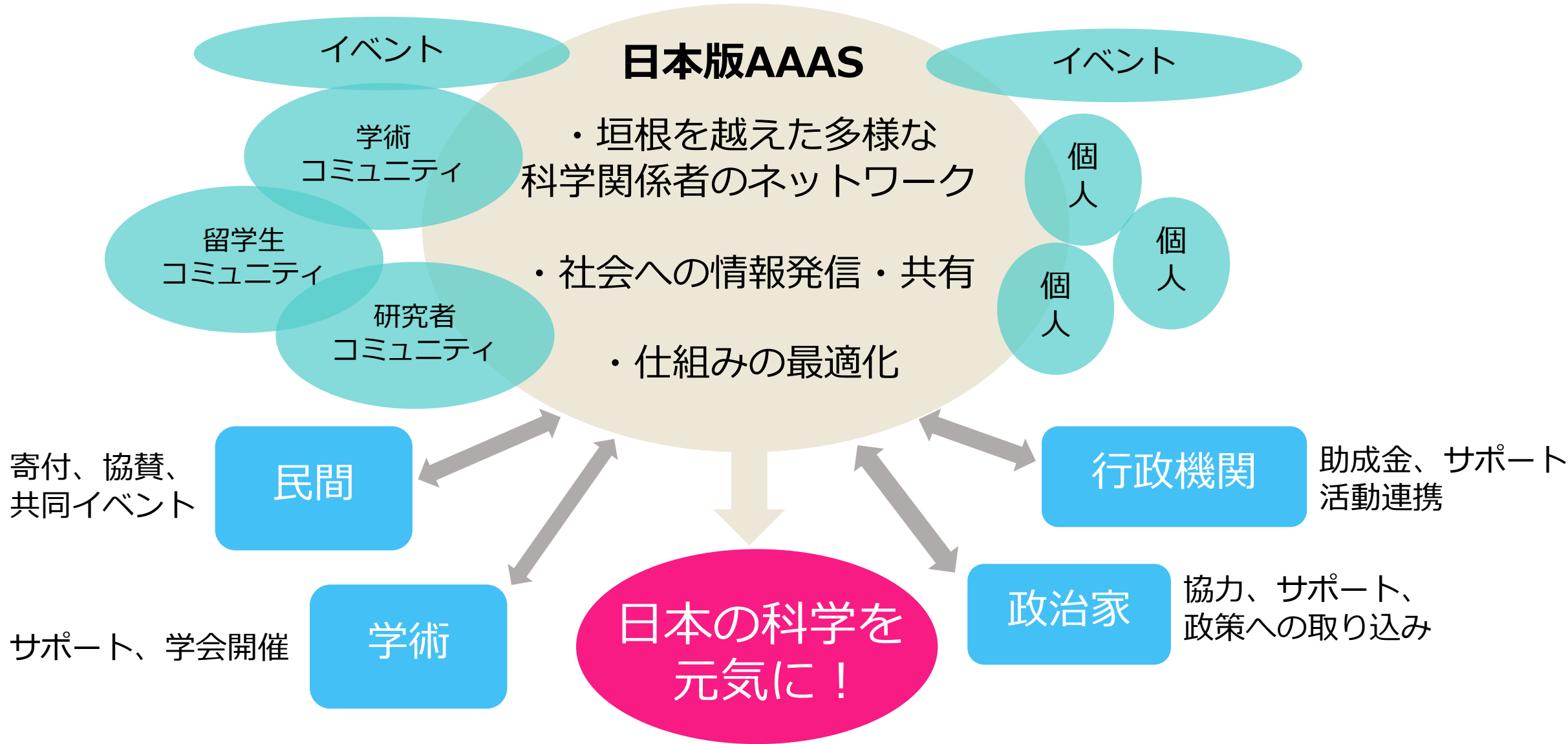
総会の開催



- ・科学の祭典
- ・日本の科学を元気にする方策についての議論
- ・市民向けのわかりやすい研究発表
- ・企業による研究紹介も

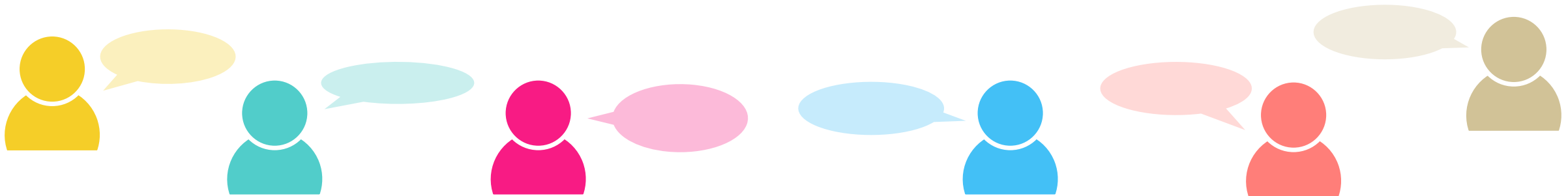
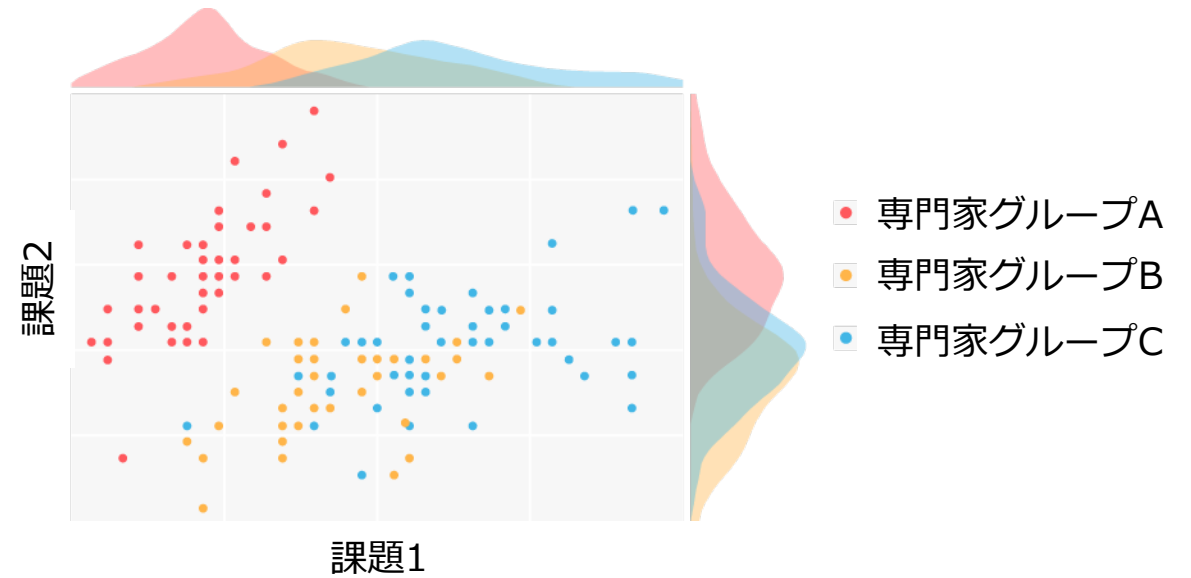
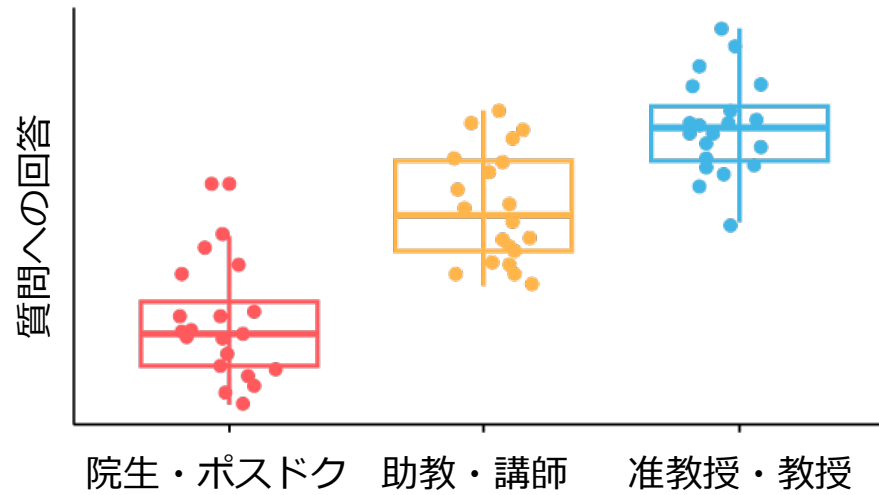
写真: [JSTウェブサイト](#) (左上) , Jarvis, Science (2018) (右上) 、サイエンス・サポート・アソシエーションのウェブサイト (中央) より

活動イメージ (案)



「集合知」の可視化

会員の多様な意見を科学的に分析・視覚化して発信



組織の位置づけ

	アカデミー (国・地域を代表する科学者の組織)	普及団体 (科学に関係する全ての人にかかれた組織)
アメリカ合衆国	米国科学アカデミー(1863)	AAAS/全米科学振興協会 (1848)
イギリス	王立協会(1646) 英国学士院(1902)	British Science Association(1831)
ドイツ	国立科学アカデミー・レオポルディーナ (1652)	Gesellschaft Deutscher Naturforscher und Ärzte(1822)
欧州全体	Academia Europaea(1988)	EuroScience(1997)
日本	日本学術会議(1949) 日本学士院(1879)	日本版AAAS(仮)

運営の理念

1. 多様性の尊重

考え方や立場の違いの多様性を認める寛容を基本とし、
他者の人格を尊重しつつ対話を行うこと

2. 科学の尊重

科学的事実・知見や推論に基づいて
対話を行う文化を醸成すること

3. 民主的な運営

多様性と科学を尊重する対話に基づいた
民主的で透明性のある意思決定や運営が行われること

活動例

- **研究環境・システムの最適化・健全化**
 - 分野横断的な共通課題についての議論・解決の場の提供
 - 研究環境の改善と最適化
 - 公正で健全な研究の促進
 - 日本の研究の海外での認知向上のための交流・情報発信
 - 日本版Cross-diciplinary ジャーナルの創設
- **政策担当者との対話**
 - アドボカシー活動
 - 調査・分析
- **市民との対話**
 - 科学コミュニケーション活動
 - 企業連携・地域連携

具体的な活動例

日本の科学の諸問題を当事者が解決に向けて取り組む機会を提供

- 科学技術・高等教育の政策担当者（政治家・官僚）との対話イベント

日本型ゴードン会議？

- 社会的に重要な大きな問題（SDGsなど）を1つテーマに掲げ、様々な分野の研究者が、自身の研究成果に基づいて、どのように貢献できるのかを発表し、議論する。
- 今年11月のサイエンスアゴラにて議論予定

Science Talks TV

- 日本のアカデミア・コミュニティ有志による、研究者と多様なステークホルダーを繋ぐ動画配信チャンネル
- 大学のオンライン授業について10月に配信予定
- その他、科学と政治の接点を政治家と語るコンテンツを予定



FAQ1

- Q. 日本学術会議を通じて様々な問題を解決するという可能性は検討しないのでしょうか？
- A. 研究コミュニティの大半を占める **一般研究者**や**研究支援者**や**一般社会で科学に関わる方々**のニーズ・意見を十分に集約し実現する必要があります。そのためには、そのような人々もメンバーとして参加し、意見を述べ、主体的で自由に活動することのできる組織が存在することが有効です。
- Q. 新しい組織を立ち上げた場合に、日本学術会議と競合するような状況になることを懸念しますが、その点についてはどのようにお考えでしょうか？
- A. 競合ではなく、**連携・協調**を目指します。
- Q. 様々な学会連合がありますが、これらとの関係はどのようにお考えでしょうか？
- A. 日本版AAASでは、「連携学会」ないしは「協力学会」のような仕組みを導入することにより、分野横断的な**学会連合の機能**も兼ねることを想定しています。
- Q. 財源はどのようにする予定ですか？
- A. まずは総会での参加・発表費、正会員からの年会費、クラウドファンディングなど、将来的にはジャーナル運営による収入などを想定しています。

FAQ2

Q. 日本版AAASを代表する意見あるいは提言に関する意思決定はどのような仕組みで行われるのでしょうか？

A. 主に選挙で選出される理事、評議員で構成される理事会、評議員会、正会員の参加する総会などによって意思決定がなされることを想定しています。また、正会員、ネット会員などの意見を迅速に集約・反映するためのアンケートシステムを整備し、評議員会、理事会、各種委員会の議論の過程は原則的に記録・公開することで透明性を確保します。意思決定の仕組みの詳細については、意見を広く募り、十分に反映させた上で定めることが予定されています。

Q. 「総会」は、どのようなものをお考えでしょうか？

A. 日本版AAASの総会では、1) 個人の研究者が行う一般向けの科学コミュニケーションとしての研究成果や計画の発表、2) 連携学会・大学などによるその分野や組織のアピール、3) 企業による研究成果や研究の取り組みについて発表・展示、4) 科学に関連する諸問題についてシンポジウムやワークショップ、などをネットを最大限活用しつつ行うことが検討されています。研究者と社会、異分野の研究者の交流の場としての祭典のようなものがイメージされています。

資料

- 趣旨（暫定版）

https://drive.google.com/file/d/1mNqxDoRaiXnsHRi_me9H5AKv5f34hv7h/view?usp=sharing

- 概要案

https://drive.google.com/file/d/1v_PGIUkrsH4l-iRFIjNWPwHMhlvOh0Fg/view?usp=sharing

- 賛同者リスト

<https://docs.google.com/document/d/1M7GUTXAL2ZKkVB3m7dl8PgyFb8mq4mIhps-MaKKKMWM/edit>

- 日本版AAAS準備委員会・委員（暫定版）

https://docs.google.com/document/d/1CtBAEQJ_w7JldUfjEJjjahW9dHMO56OZBFeZwfFXhdA/edit?usp=sharing

- Frequently Asked Questions

<https://docs.google.com/document/d/1SUUMyZhlWNSenjKXm0kuGnC6FG3KBjiZ5KzL7c8-kc8/edit>

日本の科学を
元気にするために
ぜひお力を！